

令和元年度学校評価

北海道枝幸高等学校長 吉 田 勝 文

1 今年度の重点目標

(1) 自分で考え、主体的に行動し、経験を生かす力を養う。
(2) 学ぶ意欲を持ち、自ら学びの質を高めていく力を養う。
(3) 自己を鍛え、たくましく生きる力を養う。
(4) 互いの違いを認め、思いやりを持ち、ともに成長する力を養う。
(5) 地域を愛し、日本と世界の文化や歴史を深く学び、社会の平和と発展に貢献する力を養う。
(6) 教職員個々の力量形成を図るとともに、学校の組織的実践力（学校力）を養う。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
めざす生徒像 めざす学校像	(1) 時代の変化に対応し、主体的に生きる生徒像を具体化し、教育活動の方向性の統一を図ってきた。生徒の自己有用感・自己肯定感、自尊感情を高められる機会設定を行う必要がある。 (2) 「マチの学校」としての環境整備が整いつつある。地域と連携しながら、保護者、生徒へのより丁寧な対応が求められる。	・ 目指す生徒像に対し、生徒ひとり一人が違うので合わせていくのが大変と思う。「地元の高校」として、進路希望の多様な生徒個々に対応していった欲しい。 ・ 生徒アンケートでも「枝幸高校に来て良かった」と回答する生徒が多い事に安心した。ボランティア活動については日常的に継続的な活動として意識化されていくと良い。先生方にも生徒への、自主的な活動につながる働きかけをお願いしたい。
改善方策	(1) 生徒ひとり一人の適性に応じた学習指導、進路指導の充実を図るために、授業改善の取組や学習指導と評価、生徒理解のための研修の一層の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。 (2) 生徒に望ましい将来像を持たせながら、地域から信頼される将来の社会人・職業人としての資質・能力を育成するために、より地域の実態や保護者の要望を踏まえたビジョンを共有し、計画的かつ継続的な教育活動を推進する。	
家庭・地域との連携	(1) ホームページのアクセス数は1日平均約410件である。昨年度より増加しており、引き続き学校通信、各紙報道を併せて活用し、適切な広報に継続して努める。 (2) 中高交流会や授業公開、小中高連携講座など、地域に開かれた取組への周知は継続実施している。中高交流会についてはeラーニングについて小中高職員が情報共有することができた。 (3) 生徒発信のボランティア活動が新聞記事として取り上げられたり、生徒会による募金活動によって道外の高等学校と交流を深めることができた。	・ HPの閲覧は昨年より増加している（昨年は平均300件）。継続して情報発信していった欲しい。 ・ 地域とのつながりに関しては、学校側も積極的関わっているように感じる。ボランティア活動など、生徒が主体的に活躍できるきっかけを、今後も働きかけていった欲しい。
改善方策	(1) ホームページのタイムリーな更新と、生徒の状況や保護者説明会での報告などを印刷物の活用と併せて行うとともに、見やすさなどに配慮し効果的な情報発信を継続して行う。 (2) 地域の教育ニーズを把握しながら、社会に開かれた教育課程の実現に向け、保護者と地域が枝幸高校応援団として生徒を支援して頂ける力になって頂けるよう、信頼に値する教育活動を行うとともに、引き続き協力を依頼する。	

	(3)学校祭などの行事後の懇親会など、生徒の様子との連絡などの日常的な情報交換の機会を増やし、保護者と学校との連携の必要性を認識してもらうよう努める。また、教職員も地域の催事へ積極的に参加できるよう、職場内での理解に努めていく。
--	--

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	(1)昨年度まで実施していた学習会を発展解消し、週1回7時間目を設定し、学習時間の確保に努めることができた。一昨年度から継続する朝新聞の取組にも一定の成果を得ることができた。 (2)生徒の学力の習得状況や学習歴を適切に把握した「わかる授業」「学ぶ意欲の高まる授業」の実践や、学力に応じた課題の提示と学習方法の指導と学習の定着に課題を残している。より生徒に寄り添った指導援助が必要である。	・7時間目を設定することで、時数を確保できたことは、突発的な休校対応を考えたときに、効果があるものと考えられる。 ・「家庭学習指導」のポイントが相対的に低かったが、今話のあったタブレットを活用して、学習への興味関心を高めていって欲しい。スマホなどICT機器をダメだダメだではなく、みんなが楽しく学ぶことができるように、環境を整えていってほしい。
改善方策	(1)生徒の学習状況（内容、時間、方法等）や学力、進路希望を適切に把握し、具体的な学習方法と課題を提示しながら、「集団における個」に応じた丁寧な学習指導に努める。また次年度より採用されるタブレット端末を有効活用する。 (2)教員による先進かつ効果的な取組の共有機会（研究授業）や少人数グループでの相互参観と合評の実施、校外への研修会参加と成果の共有等、授業の質的向上は継続して実践する。	
生徒指導	(1)「どさんこ☆子ども地区会議」において、生徒会を中心にいじめの未然防止に係るアピールなど、生徒が主体的に課題を見つけ、リーダーシップを発揮しながら進める取組について一定の成果を得た。一方で、自校におけるその積極活動への結びつきが、まだ弱く、学年間で共有されにくかったことが課題である。 (2)思春期こころの講座の実施により、人間関係形成のための指導や自己決定能力の伸長の指導の充実を図り、問題事項への迅速な対応に努めた。 (3)指導についての軽重の差、統一基準へのブレを感じさせる指導が生じ、平等感・公平感を欠くという指摘があった。	・アンケートによる教員個々の意識は高まっている証左もある。生徒との関わり方、情報共有の在り方について、そして組織的な対応（教育相談体制等）全学年が次年度の改善につながる具体的な取組の必要性を模索してほしい。 ・生徒からの「（進路）面談やってほしい」を糸口としても、生徒の有り様を理解するために教育相談的に意識しながら実践してほしい。
改善方策	(1)生徒が課題意識を持って取り組める活動の充実を図るため、他者を思いやれる協調性のある集団と、人間関係づくりへのメッセージ等、生徒主体の活動場面を設定・計画していく。ボランティア活動への参加も促していく。 (2)人間関係に係る生徒の変化を見逃さないよう、校内での教育相談機能を強化し、保健室との連携や役割分担、保護者との情報共有を密にして、問題行動の未然防止、心のケアの充実を図ることで、より強い信頼性を構築できるよう意識していく。 (3)生徒指導の方針と基準を明確にし、分掌・学年・教員個々においても統一した指導を行うことで、不適切な言動などに毅然と対処し、保護者の理解と協力を得ながら、学校としての説明責任を果たせるような体制づくりを見直す。また例えば生徒会を主軸として、生徒が主体的にルールを守る目線合わせの機会を年間の節目ごとに設定し、自己指導力の高まりを実感できる場面を作っていく。	
進路指導	(1)保護者、生徒からの評価は概ね良好であり、教職員による評価も成果として一致を見せている。しかし特に制度変	・進路指導分野は、特に3年生の進路実績に関して、彼らの進路をほぼ叶えたかたちで評価することができる。分掌

	更が著しい、上位進学校希望者に対する、計画的、系統的、組織的な指導に改善の余地がある。 (2) 進路ガイダンスやインターンシップの充実を図り、適切な情報提供を図ったことで、特に1・2年生の進路指導に一定の成果を得たが、生徒の主体的な進路獲得行動の具体までにはまだ至っていない。	の取組を学年など全体のものとして、組織的に働きかけた成果と思う。今後も引き続いて、生徒を導いていってほしい。
改善方策	(1) 教員と生徒が、希望進路を叶えるために必要な力を常に共有し、今年度整備してきた必要な実力養成を見据えた指導（講習、面接、小論文等）の計画・実施を改善していく。生徒個々の進捗を全体共有し、どの学年の誰がどこを希望しているかを把握し、機を見たサポートの場面を確実なものとする。 (2) 学年による生徒の発達段階に応じて、進路選択にあたっての興味と可能性を把握し、あらゆる視野から自己実現を図れる進路指導を行うために、日常の学習活動を軸に、進路学習や面談を通じたガイダンス機能の充実を図っていく。	